独特かつ繋がる日本文化 一大英博物館における展示を事例に

矢野 明子

大英博物館 アジア部日本セクション 三菱商事キュレーター (日本コレクション)、イギリス



略歴

2015年よりイギリスの大英博物館アジア部日本セクションに三菱商事キュレーターとして勤務。慶應義塾大学にて博士号(美学[日本美術史])を取得。専門分野は近世日本絵画史。ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院(SOAS)にてイギリス人文芸術研究評議会(AHRB)リサーチ・アシスタントおよびリバーヒューム財団リサーチ・フェローとして勤務の間、大英博物館での「大坂歌舞伎展」(2005年)、「春画展」(2013年)を共同企画、展覧会図録の共同編著を行った。2018年には日本セクション学芸員チームの一員として三菱商事日本ギャラリーの改装にたずさわった。

はじめに

今回のシンポジウムテーマに関連し、まず5つの問いを投げかけ、続いて大英博物館での日本文化の展示を事例に、総合的に議論に貢献したい。

- 1. 「オリエンタリズム」「オクシデンタリズム」を現代的に再考するために、日本人が日本文化をどう理解し、どう見せ、どう見られたいのかという自文化像の視点を加え、双方向のポリティクスとして問題をとらえ直してみるとどうなるか。
- 2. 西洋文明の知識体系の枠組みを基礎に成立した日本美術史を、日本美術ひいては東アジア美術の実態に則した構造に再編成できるか。
- 3. 文化と国境・国籍の関係がより流動的になったグローバリズムの時代に、日本国外を拠点とする日本人作家は増加し、伝統的な日本の「イディオム」を用いて制作する日本人以外の作家も増加している。将来的に「日本美術」はどのように規定されるのか。
- 4. アイデンティティが議論の根拠となる今日。「正しい日本文化の伝達」という、やや使い古された感のある、しかし依然として根強く残る日本側からのスローガンの目的は何か。
- 5. 現代は博物館という文化機構の今日的意義を問う時期に来ているのかもしれない。世界的な文物を収蔵する博物館は、収蔵品を所有 (own) しているのか、それとも保護・管理 (custody) しているのか。経済的に逼迫する博物館の社会的使命は何か。

大英博物館の日本コレクションと展示

大英博物館全体の年間来館者数は約600万人。うちイギリス国内からの来館者は25%未満。展示と受け手との関係には無限の多様性がある。現在当館では、常設展示、「ルーム3」、特別展示の3形態による展示の機会がある。

大英博物館の日本コレクションの基礎が形成されたのは19世紀末以降だが、初めて日本ギャラリーが開設したのは1990年のことだ。今日の日本コレクション常設展示室は三菱商事日本ギャラリーである。2006年に展示方式を一新し、日本の先史

時代から現代までを、作品をとおして通史で語る常設展示となった。単に時系列に沿って作品を並べるだけでなく、要所々々で歴史的作品と現代作品を隣り合わせて展示する取り組みを行い、生きた営みとして日本文化を理解してもらう工夫をしている。そのためには題箋のデザインや内容を学芸部門とインタープリテーション部門が相互に検討を加え、効果的な伝達方法の考案に努めている。館蔵品はすべてウェブサイト上の「コレクション・オンライン」から検索可能になっている。



一室からなる「ルーム3」(朝日新聞ディスプレー)

は、ひとつのトピックに焦点をしぼり、実験的な展示を試みられるのが強みである。 最近ではイギリスのEU離脱の動きを鑑みつつ「ヨーロッパとは何かーアジアから の視点」というテーマを取り上げた。日本関係では、2017年に浮世絵に見る木版技 術と「見立て」概念を解説する展示や、2009年と2015年にはマンガを取り上げてお おいに人気を博し、2019年初夏に開催予定のマンガ特別展につながった。

特別展開催の契機として近年特徴的な傾向に、外部研究費の助成を受けた国際共同研究プロジェクトの研究成果発表がある。『大坂歌舞伎展』『春画展』『北斎展』がこれにあたり、日英その他の地域の研究機関と研究者が共同研究を行う。数か年を費やす研究を基礎にすれば、特別展は挑戦的な内容に取り組むことができる。2013年の春画展に対しては、「日本文化の理解」をめぐる日本側からの漠然とした不安と抵抗が示されたが、結果的には成功裡に終わった。性という普遍的な主題について新たな視角を提示する材料として、イギリスでは積極的に評価された。

結 語

「世界のための世界の博物館」である大英博物館は、収蔵品は人類全体のものと認識し活動している。今後も収蔵品の「来歴」を把握すること、語りの視点を複数化し、展示を見せる側と見る側とのあいだの有効なコミュニケーションのメカニズムを確立する努力が必要だ。博物館が人間の知性の理想的な在り方を支持し、世界をつなげる「交差点」であり「公の場(フォーラム)」であることを社会的に示せれば、その存在意義がゆらぐことはないだろう。

